

農村ツーリズム展開方針

令和2年(2020年)7月1日
後志総合振興局

1 地域の現状

- 後志管内は、北海道の南西部に位置し、北部、西部は日本海に面し、東部は石狩地域に接しています。また、南部は西胆振地域に接するとともに、渡島半島(渡島地域・檜山地域)の付け根にまで及んでいます。総面積は430,587haで全道の総面積8,342,439haの5.2%を占めており、この面積は東京都の総面積の約2倍に匹敵する面積です。
- 気候や土地等の自然条件、大消費地である札幌圏に隣接しているなどの地理的条件から、蘭越・共和の水稲、羊蹄山麓の畑作物・野菜、北後志の果樹、南後志の畜産など幅広い生産活動が行われており、さながら「北海道農業の縮図」と呼べる特徴があります。
- 景観に優れ、史跡・伝統文化に富んだ日本海の海岸線、雪質の良さで世界有数のスキーリゾートとして知られるニセコアンヌプリ、豊富な湧出量を誇る数多くの温泉、そして新鮮な山海の幸、おいしい水など、多くの観光資源に恵まれており、年間約2300万人の観光客が訪れる本道を代表する観光エリアとなっています。

2 地域の抱える課題

- 基幹産業である農林水産業では、高齢化等による担い手不足が進行し、多様な人材の確保・育成や省力化を図る取組が必要となっており、また、一次産業の高付加価値化のため地産地消や道外・海外への販路拡大に向けた流通体制の構築、ブランド化の支援が必要となっています。
- 小樽やニセコ周辺は本道を代表する国際的観光エリアであるが、日帰り観光が大半を占めることや観光客の季節的偏在が課題となっていることから、滞在・通年型観光を推進する取組が求められており、また、北海道新幹線の全線開業が予定及び高規格幹線道路の整備が進んでいることから、その交通ネットワークを活用する広域観光づくりが必要となっています。
- 国際的イベントの開催やLCCの就航などにより、多くの観光客の道内への入り込みが期待されることから、地域こだわりのブランド食を提供する食観光、エコツーリズム、サイクリング、ラフティング、スキー、乗馬などの体験型観光といった地域資源を活用した、ホスピタリティの高い魅力ある観光地づくりのほか、地域情報の発信強化が必要となっています。

3 今後の展開方針

- 地域の自然や食などの地域資源を国内外に効果的に情報発信をするとともに、後志の多種多様な一次産業を活かした体験型・滞在型観光を推進し、雇用の創出や交流人口及び関係人口の拡大を図る。

【具体的展開】

- 国の農山漁村振興交付金(農泊推進対策、農山漁村活性化整備対策)等の活用について、関係者への事業制度の周知や助言・指導を行う。
- 農作業体験や見学など、様々な体験が可能な「ふれあいファーム」について、振興局公式SNSアカウントなどにより国内外向け(英語翻訳付)の情報発信の強化に努めるとともに、教育旅行の円滑な受入促進に向け教育旅行受入組織との連携を強化。
- 多数のワイナリーを有する後志の特徴を生かしたワインツーリズムを積極的にPRするとともに、サイクルツーリズムなど多様なツーリズムと合わせて、地域の取組を振興局公式SNSアカウントで国内外向け(英語翻訳付)にPRを実施。
- 国内外に後志を積極的にPRしている国際リゾートエリア関係団体等との連携を強化。